

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	病理学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	安部 辰夫	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
疫病の理解に不可欠な病理学の知識を学び、臨床へと繋げる						
《成績評価の方法と基準》						
毎回の授業終わりに授業内容の理解度を図ることを目的に演習として小テストを行い、総合評価のうちの10%分の平常点とし、出席点で20%、期末試験で70%として成績を出す。ただし、国家試験科目であるので試験素点で60点未満の場合は不可となる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
カラーで学べる病理学/ヌーヴェルヒロカワ						
《授業外における学習方法》						
授業に用いるテキストなどで予習を行い、ノートにより復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
新しい用語や概念が出てくるので、必要に応じて覚えていくこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学とはどんな学問か、どう役立つのかなどを理解する	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	医療における病理学の役割を学ぶ			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	病因と細胞傷害などを理解する	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	どういったものが病因なのか、細胞傷害で何がおこるかなどについて学ぶ。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細胞、組織の傷害について理解する	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	変性、萎縮、肥大、過形成、化生などについて学ぶ。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	修復と再生について理解する	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	創傷治癒、肉芽組織、繊維化、瘢痕などについて学ぶ。			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環障害について理解する	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	充血、うっ血、出欠、浮腫、梗塞などについて学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 授業を通じての到達目標	ショック、高血圧などについて理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	ショックの分類、高血圧症の分類について学ぶ			
第7回	講義 授業を通じての到達目標	代謝異常について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	糖尿病、糖原病、脂質異常症などについて学ぶ			
第8回	講義 授業を通じての到達目標	タンパク質代謝異常、カルシウム代謝異常などを理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	アミロイドーシス、低タンパク血症、高血圧症、低血圧症などを学ぶ			
第9回	講義 授業を通じての到達目標	老化について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	老化のメカニズム、老化がもたらす臓器の変化などを学ぶ			
第10回	講義 授業を通じての到達目標	先天異常について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	先天性異常、染色体異常、遺伝子疾患などについて学ぶ			
第11回	講義 授業を通じての到達目標	炎症について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	炎症性メディエーター、急性炎症、慢性炎症などについて学ぶ			
第12回	講義 授業を通じての到達目標	感染症について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	細菌感染、ウイルス感染、真菌感染、原虫感染などについて学ぶ			
第13回	講義 授業を通じての到達目標	自己免疫疾患について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、パセドウ病などについて学ぶ			
第14回	講義 授業を通じての到達目標	腫瘍について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	腫瘍の分類などについて学ぶ			
第15回	講義 授業を通じての到達目標	悪性腫瘍について理解する		教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
	各コマにおける授業予定	がんのメカニズム、腫瘍マーカー、腫瘍免疫などについて学ぶ			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	病理学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	安部 辰夫	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
疫病の理解に不可欠な病理学の知識を学び、臨床へと繋げる						
《成績評価の方法と基準》						
毎回の授業終わりに授業内容の理解度を図ることを目的に演習として小テストを行い、総合評価のうちの10%分の平常点とし、出席点で20%、期末試験で70%として成績を出す。ただし、国家試験科目であるので試験素点で60点未満の場合には不可となる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
カラーで学べる病理学/ヌーヴェルヒロカワ						
《授業外における学習方法》						
授業に用いるテキストなどで予習を行い、ノートにより復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
新しい用語や概念が出てくるので、必要に応じて覚えていくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転移のメカニズムを説明することができる。	教科書		授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	腫瘍の転移について学ぶ			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患について説明することができる。	教科書		授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	代謝疾患について学ぶ			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	小児・老人の病理について説明することができる。	教科書		授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	小児・老人の病理について学ぶ			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	消化器の病理について説明することができる。	教科書		授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器の病理について学ぶ			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の病理について説明することができる。	教科書		授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器の病理について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	循環器の病理について説明することができる。	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環器の病理について学ぶ		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腎臓の病理について説明することができる。	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	腎臓の病理について学ぶ		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容についての総復習と重要項目について説明することができる。	教科書	授業予定の箇所を教科書で予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			